建設経済常任委員会研修視察報告書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田中貞男

令和４年７月２１日～２２日　福岡県香春町・大分県由布市

研修内容　「下水道処理の在り方について」

１福岡県香春町(２１日)

　香春町は、九州管内において１級河川の環境基準がワースト３位に常に名前を連ねていたために、早急に環境を良くしていこうとの取り組みにおいて、平成１４年度において「香春町環境基本計画」を策定した。早期に汚水処理施設整備に取り組むにはどの様にしたら良いか検討した結果、日本で初めてのPFI方式を取り入れ、平成１６年度から平成２５年度の１０年間の事業で取り組んだ。設備可能な戸数は３５００基を目標に取り組んだ。

　住民や民間事業者へ説明や周知を１年かけて行なった。工事については、町管工事組合、維持管理業者にお願いし取り組んで来た。令和３年度末において２２１８基の設置が済んでいる。人槽区分は５人から７人槽が９０％以上を占めている、平成２５年度以後は通常の工事で行なっている。

　工事内容において浄化槽工事の負担と管理区分については、私たちの市と違って、家屋配管と浄化槽から排出部分については、個人負担で行ない、ブロアと浄化槽については町の負担となっている。

　管理に関しては、分担金５人槽８万円、７人槽９２０００円、１０人槽１１６０００円である。使用料については、月額５人槽５０１０円、７人槽５６４０円、１０人槽６６４０円で、使用料には保守・点検費用と法定検査料や消毒薬品代等に汚泥の引き抜き等は使用料で支払っている。

　今後、浄化槽等の大きな劣化等が起きたときに、現状の運営方法で行政が行えるのか問題であると感じた。

２　大分県由布市(２２日)

　　由布市の狭間地区(旧狭間町)において、公共下水計画を平成８年度から平成２７年度の工期で行なっていた。全体工事費の管路敷設において１２２億円の計画で進んでいた。

平成１４年に合併の話が進み、平成１７年１０月に合併して由布市になった。

工事７年目で５億６０００万円の４．６％の進捗状況の中ではあったが、町財政の悪化により下水道事業を中止したいことで、平成１５年度において大分県事業評価監視委員会の審議の結果において、中止が妥当と判断された。付帯意見として「河川の水質改善や快適な文化生活をするうえで必要な事業であることから、地域住民に説明と理解を得ること、手法の見直しをする条件をつけられた。」

　下水道事業として長期的には収支バランスはとれる事業ではあるが、初期投資の汚水処理場や幹線管路の負担が大きいことから、健全な財政運営をするために中止となった。

　今後については、個別の合併浄化槽の普及促進を図り、新築や・改築時に補助予算枠の拡大をしていくことなった。狭間地区は、別府市や大分市のベットタウンで人口は増えている。

宅地化になってきていることで、令和２年の７月の豪雨で内水氾濫が発生したことで、雨水処理をしていかなければならず水路の嵩上げなどに取り組んでいる。

　狭間地区においては、三カ所の農業集落排水施設があり、施設も老朽化している事から、令和２年度で大規模改修の計画策定し４０年間の修繕計画を立てた。近隣の施設については統廃合の検討を行ない「経済的にも有効である」とのことです。

　補助事業では、国費基準額に加えて上乗せをしている。また、単独槽から合併浄化槽に帰るときにも、単独槽の撤去費や合併槽設置に対しても追加補助を行なっている。

　私たちの市も公共下水事業や農業集落排水事業についても長期計画を行ない、思い切った決断も必要と考える。